

# 万が一の災害に備えて あなたの準備は大丈夫ですか

いつ起こるか分からない災害の恐ろしさを忘れてはいけません。過去に自分たちの住む地域でどのような被害があったのかを知り、情報を正しく理解しながら、地域の特色を把握しておきたいものです。そこで、本年度の機構改革で新しくできた安全安心課で、水害や地震などの防災について話をお聞きしました（担当は市民編集委員・杉山、古田島）。

問い合わせは同課 ☎890-5935。

## 過去にも大きな地震や水害

地震については、昭和六年の西埼玉地震で県内のほとんどの市町村が震度五を記録。多数の被害が発生しました。また、平成十六年の新潟県中越地震では本市で震度四を記録して一部の家屋などに被害を受けたことは、まだ記憶に新しいところではないでしょうか。

風水害については、昭和二十二年から三年連続して、カ

スリン台風、アイオン台風、キテイ台風が襲来。特に、カスリン台風では、当時の市域に大きな面積を占める旧利根川氾濫原のほとんどが水没しました。さらに、赤城山のすべての沢で土石流が発生したとされ、特に大胡・宮城・粕川地区などの山間部で多くの死者が出ています。

また、最近では、昭和五十六、五十七年などに雷雨によ

る集中豪雨で大きな被害が発生。特に、平成九年九月には一時間に百ミを超える大量の雨が降り、建物などに四百十四件もの浸水被害がありました。

## 被害を想定した対策が大切

市では、将来、市域に大きな被害の発生が予想される地震について、被害想定調査を行いました。また、これを基に市職員による防災図上訓練も今年の一月に実施していま

す。もちろん、実際に地震が発生した場合には、想定通りの被害状況になるとは限りません。避難場所の確認や非常食の用意など、わたしたちも

日ごろの備えが大切です。

市では災害に備えて、各支所管内に非常食、生活物資などを備蓄するとともに、非常に時に飲料水として利用できる耐震性貯水槽を八カ所の学校などに設置。また、大災害に備え首都圏の県・都市などと相互応援に関する協定を締結しているそうです。

## 家庭での準備や心構えなど

風水害に備えるには気象情報を正しく理解しておき、特に、台風の襲来が予測されるときには早めに対策を立てましょう。常に最新の気象情報

を集めることで、被害を最小限にとどめることができます。具体的には、次の点を確認しましょう。

①窓の雨戸を閉める。雨戸

のない窓はガムテープで目張りをしてカーテンを引く②ベランダの物干しざおなど、飛びやすい物は片付けるか固定をする③瓦が不安定な場合は針金などで補強し、アンテナもしっかり固定する④排水溝や雨どいを掃除する⑤ゴミ箱など流されやすい物を片付ける⑥浸水の恐れのある家では家財道具を高い所に移す。地震に備えるには、家の中にも注意が必要です。

「地域の安全はそこに住む住民自らの手で守る」という意識が大切。市では各自治会単位で自主防災会を結成し、会を中心とした防災活動の推進を目指しているそうです。現在、二百五十二自治会中で結成されているのは百一自治会のみ。六割の自治会では未結成です。近隣に住む人たちは、市の防災本部でも被害の

## 自主防災会で地域の安全を

状況が迅速に確認できません。ぜひ、各地域で取り組みを進めていきたいものです。また、普段から自治会、子ども会、老人クラブなど、地域団体の行事などに参加しておき、近隣に住むみんなが顔見知りになると「いざ」というときに安心です。地域の人間関係が防犯だけでなく、防災にも不可欠ではないでしょうか。



本番さながら真剣に取り組む参加者（昨年の水防訓練で）

## 避難誘導や救助・消火などを多彩に

### 桃ノ木川竹橋下流で7月2日に総合防災訓練

桃ノ木川竹橋下流で総合防災訓練を実施します。これは、昨年まで水防訓練として行っていたものを、地震などの災害にも備えて、さまざまな被害から地域を守り、安全で安心なまちづくりを進めていくためのもの。常備消防、消防団などに加えて、今年には地元の桂萱地区からも自主防災会が参加します。自分たちの地域を自ら守るためにも、みんなで訓練を見

学してみませんか。なお、駐車場が限られているため、公共交通機関を利用してお越しください。日時 7月2日(日)午前9時～正午 会場 桃ノ木川竹橋下流(東片貝町、東上野町) 内容 避難誘導訓練、救出・救助・消火訓練、非常食糧炊き出し、水防や水難救助の訓練など 交通機関 永井バス(グリーンドーム前橋―東大室)で青果市場前下車